

“能”と“会”の文法的使い分けと意味的分析について

—能力を表すことを中心に—

張 素 娟

Abstract

‘能’ and ‘会’ can both express the meaning of ‘have the ability to’. In conventional research, ‘能’ means ‘ability’ and ‘achievement’, and ‘会’ has the meaning of ‘skill’. However, little research shows how the difference between ‘能’ which means ‘ability’ and ‘会’ which means ‘skill’, is carried out. On the other side, there is also little research about ‘能’ and ‘会’ when both express the meaning of ‘achievement’. In this paper, which based on previous research, we try to summarize the fundamental semantic characteristics of ‘能’ and ‘会’. Furthermore, we try to analyze terms and conditions of the use of ‘能’ and ‘会’ cooccurring with numerical expressions which has not been touched upon in the conventional research, and we try to define the difference of meaning between ‘能’ and ‘会’.

キーワード……能力 達成 数量表現 序列化

1 問題提起

中国語における可能助動詞の“能”も“会”も「能力を表す」、「可能性を表す」意味を持っている。しかしながら、両者は必ずしも常に文法上置き換え可能であるとは限らない。例えば、

(1) 我{能/会}打棒球。

(私は野球ができる。)

(2) 他{能/*会}游 500 米。

(彼は 500 メートル泳げる。)

(3) 我今天带泳衣了, {能/*会}游泳。

(今日水着を持ってきているので、泳げる。)

(4) a. 张三很能买东西, 见什么买什么。

(張三是非常によく買い物をし、見たものは何でも買ってしまいます。)

b. 张三很会买东西。

(張三は買い物が上手です。)(黄麗華(1995))

“能”と“会”の文法的使い分けと意味的分析について（張素娟）

(2)と(3)の場合、なぜ“能”と“会”とが置き換えられないのか。そして(4)の場合、両者は置き換えられるが、意味的には異なっている。さらに、(1)の場合には両者は文法上置き換えられるが、果たして両者は意味的には同じかどうか。本研究では先行研究に基づき、これらの問題について考察しながら、能力を表す場合の“能”と“会”の意味特性と使用条件を明らかにする。

2 “能”と“会”の意味分類

能力を表す“能”と“会”の意味分類に関しては、『超級クラウン中日辞典』では次のように記述されている。

2.1 能力を表す“能”の意味特性

①…(肉体, 生理, 知能に能力があつて)…できる。

(5) 我会游泳, 能游一千米。

(私は泳げます、1キロ泳げます。)

(6) 他病好了, 能走路了。

(彼は病気が治って歩けるようになった。)

(7) 小刘能当翻译。

(劉さんは通訳できる。)

②…するのが上手である。“很”, “最”, “真”などの程度副詞に修飾される。

(8) 她能交际。

(彼女は人付き合いがうまい。)

(9) 他很能喝。

(彼はかなり飲めるくちだ。)

(10) 五个人中他最能跑了。

(5人の中で彼は一番足が早い。)

③…(状況, 条件, 材質などから)…できる。

(11) 这次没能见到你, 太遗憾了。

(今回はお会いできなくて誠に残念でした。)

(12) 一个小时能到吗?

(1時間でつきますか。)

(13) 西瓜子也能吃。

(スイカの種も食べられる。)

2.2 能力を表す“会”の意味分類

①…(訓練・学習の結果、技術を習得し、また練習として身につけていることを表し)…できる。

(14) 小张会弹琴。

(張さんはピアノをひくことができる。)

(15) 现在我会说汉语了。

(今では、私は中国語を話せるようになった。)

(16) 我不会抽烟。

(私はタバコはやりません。)

②…(多く程度副詞“很，真，最”などを伴い)…するのがうまい、…するのが得意である。

(17) 他真会说话。

(彼は本当に口がうまい。)

(18) 她很会过日子。

(彼女はやりくり上手だ。)

2.3 分析

以上の分類で分かるように、能力を表す“能”も“会”も「～ができる」「～するのが上手」を表すことができる。“能”が表す「～ができる」は「肉体、生理、知能、外部の条件など」があってでき((5)-(7), (11)-(13))、“会”が表す「～ができる」は「練習などを経て技能を習得して」できる(14)-(16)。しかし、すでに周知されるように、練習などをしなくてもできることは“会”を用いることもできる。

(19) 老鼠生来{能/会}打洞。

(ネズミは生まれながらにして穴をほることができる。)

また、技能を習得するには「肉体、生理、知能など」の“能”の要素が不可欠な場合が多い。したがって、(1)-(3)で示すように能力を表す場合、“会”も用いられれば、“能”も用いられる。

“能”と“会”の「～するのが上手」の語彙項目に関しては、(4)で示すように両者が置き換えられるが、意味的には異なっている。

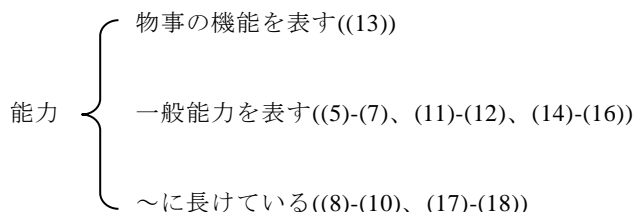
本研究では、“能”と“会”のこれらの語彙分類を検証しながら、以下の2点を中心に考察し、能力を表す“能”と“会”の根本的な意味特性をまとめながら、両者の使用条件を探っていく。

- i 「能力を表す」「能」と“会”が表す意味の再分類及びそれぞれの意味における“能”と“会”の根本的な使い分けについて。
- ii “能”と“会”の数量表現との共起可能性及びその異同について。

3 「～ができる」を表す“能”と“会”の相違

本研究では、「～ができる」という能力を表す“能”と“会”を図1のようにさらに細かく三つの語彙項目に分類をした。

図1



本章では、この三つの語彙における“能”と“会”の意味特性と使用条件の相違を解明したい。

3.1 物事の機能を表す場合の“能”と“会”の相違

前章で分かるように“能”は「状況、条件、材質などからできる」意味を表すことができる。しかし、“会”はこのような意味を表すことができない。したがって、(11)-(13)では、“能”と“会”は置き換えられない。

(20) 这次没{能/*会}见到你，太遗憾了。(11)再掲

(21) 一个小时{能/*会}到吗？(12)再掲

(22) 西瓜子也{能/*会}吃。(13)再掲

(20)は「状況が許さないからできない」ことを表し、(21)は「一時間という条件でできるかどうか」を表し、(22)は「スイカの種の特徴によってできる」ことを表す。筆者は(22)のように材質も含め、物事の機能を表す時には“能”しか用いられず、“会”は用いられないと考える。

(23) 大蒜{能/*会}杀菌。(吕叔湘(1980.))

(ニンニクは殺菌力がある。)

(24) 这支毛笔{能/*会}画画吗？(吕叔湘(1980.))

(この毛笔は絵を描くことができるか？)

(25) 智能红绿灯{能/*会}准确感知汽车流量。

(知能の信号は交通量を正確に感知することができる。)

(26) 这床{能/*会}睡两个人。(郭春贵(2001.))

(このベッドには二人が寝れる。)

(27) 它的叶子顶硬，{能/会}把人的手指拉出血来；夏天里，开着紫色的花塔。《老》

(その葉はとても硬くて、血が出るほど手が切れることがある。夏に、紫色の花が咲く。)

3.2 一般能力を表す“能”と“会”の相違

(20)、(21)のように状況・条件によってできることを表す場合、“能”と“会”が置き換えられないことに関しては、相原(1997)で“会”で表される「技能」は一旦身につければ、一種の「習得」状態として個人に資格登録される。「技能習得レベルの深浅」を問題にする場合や、それに関わる具体的・個別的な能力は“会”ではなく“能”を用いることになる」と述べられている。

(28) 你{能/会}在明天的欢迎会上唱歌吗？

(明日の歓迎会であなたは歌えますか？)(相原(1997))

(29) 你今天{能/会}游泳吗？

(あなたは今日泳げますか？)(相原(1997))

(30) 他昨天还{能/会}唱歌，今天却病倒了。

(彼は昨日は歌っていたのに、今日になって倒れてしまった。)(相原(1997))

(28)-(30)では、“明天”“今天”“昨天”といった具体的な時間があるので、“会”が用いられないと考える。

さらに、相原(1991)では、“笑、爬、站、坐、走路、说话”のようなカタチ(形態)を伴う行為は“会”を使うと述べられている。

(31) 孩子会爬了。

(子供はハイハイできました。)

(32) 孩子会坐了。

(子供はすわることができました。)

(33) 孩子会说话了。

(子供は話すことができました。)

(34) *孩子会看了。

(35) *孩子会听了。

(31)-(33)では、確かに“爬、坐、说话”はカタチを伴う行為で、(34)、(35)では“看(見る)、听(聞く)”は明確なカタチとして認知し得ない動作である。しかし、以下の例を観察しよう。

(36) 孩子会思考了。

(子供は思考することができました。)

(37) 孩子会听音乐了。

(子供は音楽を聞いて分かるようになりました。)

(36)、(37)では“思考、听”は明確なカタチを伴う動作であると考えにくいだが、“会”を使うことは全く支障がないと考えられる。したがって、カタチを伴う動作であるかどうかは“会”

“能”と“会”の文法的使い分けと意味的分析について（張素娟）

を使うことを制約する要因ではないと考えられる。

本研究では“会”は「やり方が身につけていてできる」意味を表し、“能”は「やり方が分かった上で、生理的条件や外部の条件などがあってできる」意味を表すと考える。つまり、“能”と“会”は重なっている部分が存在しながら、“能”は“会”に比べ、より広範囲的に用いられている。

(38) a. 我会打棒球。

(私は野球ができる。)

b. 我能打棒球。

(私は野球ができる。)((1)再掲)

c. 我{会/?能}打棒球，但是今天没有时间不{能/*会}打。

(私は野球ができるが、今日は時間がないので、することができません。)

(39) 我今天带泳衣了，{能/*会}游泳。

(今日水着を持ってきているので、泳げる。)((3)再掲)

(40) 他病好了，{能/*会}走路了。

(彼は病気が治って歩けるようになった。)

(41) 你会用刀和叉吗？

(ナイフとフォークを使うことができますか？)

(38a)は、私は野球の仕方を身につけている意味を表す。つまり、野球をすることが実際に実現できるかどうかはまったく関係がない。たとえ今体調が悪い、あるいは天気がよくない、または野球場が空いていないなどの理由で野球をすることができなくても野球の技術を身につけていることにかわりがない。つまり、“会”を表す「能力」は、いったん身につければ、主体の身体能力、意思、外部の条件などに影響されない能力のことを指す。(38b)では、“会”ではなく、“能”が使用されている。つまり、私は野球のしかたを身につけている。さらに、条件が整っていれば、野球をする能力を実際に発揮することもできる意味を表す。つまり、“能”を表す「能力」はやり方を身につけているものと実際に能力を実現することができるものの両方表すことができる。したがって、(38c)の前半の文では、単純に私は野球のやり方を身につけている意味を表すので、“能”より“会”のほうがふさわしい。(38c)の後半の文では、時間がないので、私は野球をする技能を身につけているが、野球をすることが実現できないという意味を表す。したがって“能”を用いる。

(39)では、「今日水着が持っている」という条件があつて泳ぐことが実現できる意味を表すので、“能”を用いるのが適切である。“会”を用いると、「今日水着が持っているので泳ぎ方が分かる」意味になるので、不適切である。

(40)では、“会”を用いると「彼は歩く方法が分かる」意味を表す。これは病気が治るかどうかという条件には関係のない能力なので、“会”を用いることが不適切である。

(41)では、ナイフとフォークの使い方が分かるかどうかを問題にしているため、“会”を用いる。

以上から分かるように、“会”はやり方を身につけている能力を表し、“能”はやり方を身につけている能力と能力の実現の両方を表すことができる。

次に、“会”が表すやり方を身につけている能力と“能”が表すやり方を身につけている能力がまったく同じ意味なのかについて論述したい。

(42) 我会游泳, {能/*会}游 1000 米。

(私は泳げる。千メートル泳げる。)

(43) 张三是四川人, {能/*会}说一口非常地道的四川话。

(張三は四川人で、非常に標準的な四川語が話せる。)(黄麗華(1995))

(44) 他能听懂鸟儿说的话。

(彼は鳥の言ったことを聞き取ることができる。)

(45) 这个蛋糕我一个人也能吃完。

(このケーキは私一人でも食べきれれる。)

(46) 一个人最多能办几张信用卡?

(一人には最大何枚のクレジットカードが作れますか?)

(47) 你能吃辣的吗?

(辛いものが食べられますか?)

(48) a.我会打棒球。

(私は野球ができる。)

b.我能打棒球。

(私は野球ができる。)(1)再掲)

黄麗華(1995)では、「能」は「状況が一定のレベルにまで達することを表す」と述べられている。相原(1997)では、到達度が問われる時に“能”を用いると述べられている。本研究では、能力の有無を表す場合の“能”に限って達成(どのくらいできる)を表すことができると考える。そして、この場合の“会”は達成を表すことができないと考える。

(42)では、泳げる能力を身につけていて、そしてその泳げる能力が千メートルまで達成していることを表す。したがって、前半の文は“会”を用い、後半の文は“能”を用いる。

(43)では、四川省出身の張三が四川語を流暢に話せるレベルである意味を表すため“能”を用いる。

(44)では、彼は鳥の話まで聞き取れる意味を表し、“能”を用いるのがふさわしい。

(45)は、私は一人でもケーキを一つ食べきれれる能力まで達成している意味を表す、(46)は一人にクレジットカードを何枚まで作れるという枚数達成の意味を表す。

(47)では、食べ方を身につけているというより、能力的に辛いものが食べられるレベルまで

“能”と“会”の文法的使い分けと意味的分析について（張素娟）

達している意味を表すため、“能”を用いる。

以上の分析から(48a)と(48b)の違いを考察しよう。

(48a)も(48b)も「野球ができる」意味を表すが、“会”を用いる(48a)は「私は野球の仕方が分かり、野球することができる」意味を表す。“会”を用いる(48b)は「私は野球の仕方が分かってできるレベルになっている」意味を表す。したがって、(48a)と(48b)は会話文ではそれぞれ以下のような用例になる。

(49) A:你会不会打棒球？

(野球ができますか？)

B:我会打棒球。

(できます。)

(50) A:除了游泳以外你还能做什么运动？

(水泳のほかに、どんなスポーツができますか？)

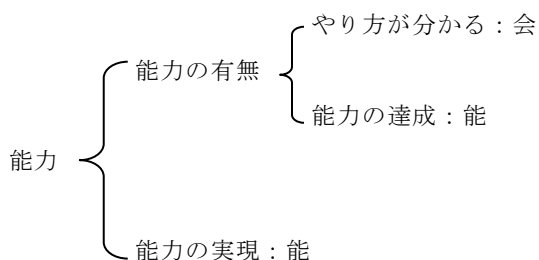
B:我还能打棒球。

(野球もできます。)

単純に野球のやり方が分かるかどうかについて問答する時に、“会”が適切で(49)、他にどのようなスポーツはができるか、つまりできるスポーツの種類はいくつまで達しているかという達成度について問答するときには“能”が適切である(50)。しかし、これは非常に繊細なニュアンスの違いであるため、前後の文脈がない限り、(48a)と(48b)は同じ意味であると理解してもよいと考える。

以上の分析に基づき、本研究は「能力」を表す“能”と“会”の使い分けを図2のように分類する。

図 2



3.3 「～に長けている」ことを表す“能”と“会”の相違

周知のように、“能”も“会”も程度副詞と共起する場合、「～に長けている」意味を表すことができる。能力を表す“能”が程度副詞と共起する場合は、「数量」の概念を含意し、“会”は程度副詞と共起する場合は、「～するのが巧みだ」という意味を表すことが、これまでの研究

で明らかにされてきた(相原(1991);史有為(1994);黄麗華(1995);片桐(2006))。

(51) a. 张三很能买东西， 见什么买什么。

(張三是非常によく買い物をし、見たものは何でも買ってしまう。)

b. 张三很会买东西。

(張三は買い物が上手だ。)(黄麗華(1995))

(52) a. 他很能写文章。

(彼は文章をたくさん書くことができる。)

b. 他很会写文章。

(彼は文章を書くのが得意だ。)(史有為(1994))

(53) a. 他真能笑， 一笑起来就没完没了。

(彼は本当によく笑う。一度笑い出すと止まらない。)

b. 你真会笑， 羡慕死了。我也想像你那样笑。

(あなたは本当に笑うのが上手でうらやましい！私もあなたみたいに笑えるようになりたい。)(片桐(2006))

(51)、(52)、(53)では、程度副詞と共に起する場合、“能” が数量的に高いレベルに達していることを意味し、“会” が上手に行うことを意味することは明らかである。

3.3.1 程度副詞と共に起さない場合の“会”の意味特性

程度副詞と共に起さない場合に関しては、相原(1997)、荒川(2003)、勝川(2011)では、“会”が「～に長けている」を表す場合の使用条件を指摘した。相原(1997)では、“会”の後ろの動詞を誰でもやる動詞と典型的な技能系動詞の2種類に分け、動詞の種類によって“会”が表す意味に相違が見られると指摘した。荒川(2003)では、動作主がどのような人間かが、“会”の意味解釈に影響すると述べている。勝川(2011)では、子供が自然と習い覚えていく動作と大人であれば誰でもが習い覚えている技能の例などを用い、“会”の可能から上達への派生プロセスを分析している。

(54) 她会唱歌。(彼女は歌がうまい。)(相原(1997))

(55) 我不会说话。

(私は言葉が話せない。)

(私は口べただ。)(荒川(2003))

(56) a. 孩子会{走路/说话}了。

(子供は{歩ける/話せる}ようになった。)

b. 爸爸会{走路/说话}。

(お父さんは{歩く/話す}のが上手)(勝川(2011))

相原(1997)では、(54)の“唱歌”は「巧拙は別にして誰でもやる」部類になるので、「できな

“能”と“会”の文法的使い分けと意味的分析について（張素娟）

い」と言いつつ「やっている」わけだ。したがって、ここでは、私は歌が苦手で、人前では「歌はご容赦ください」という意味を表す。荒川(2003)では、(55)の“不会说话”の主語の“我”が健常者であれば、「口下手」という意味を表すが、聾啞者であれば、「話せない」意味を表す。勝川(2011)では、(56)の“走路/说话”の動作主が子供であれば、自然と習い覚えていく動作行為で、「デキル」と表現できるが、動作主が大人であれば、誰でもが習い覚えている技巧・技能として敢て「デキル」とは表現されない。

また、邹韶華(1997)では“小王好抽(王さんはよくタバコを吸う)”と“小王好穿(王さんは服が好きである。)”を分析する時に“穿”は“必然性行為(必然性行動)”で、“抽”は“或然性行為(蓋然性行動)”という言い方が使用されている。必然と蓋然という概念は他の動詞の分類にも適用できると考えられる。本研究では、「～に長けている」意味を表す“会”の使用条件を解明するため、“会”が表す技能を必然技能と蓋然技能の2種類に大別する。

本研究で用いる必然技能と蓋然技能を以下のように定義しておく。

必然技能：誰でも必要或いは必然的にできる技能。つまり、生まれた環境において、誰でも出来る技能のこと。

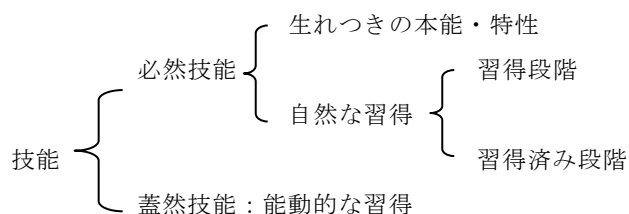
例えば：“吃饭(ご飯を食べる)”、“说话(話す)”、“喝水(水を飲む)”、“睡觉(寝る)”、“买东西(買い物する)”など正常な大人なら誰でも出来る技能、或いは“说汉语(中国語を話す)”みたいに誰でも出来るわけではないが、中国人なら誰でもできるような技能も(中国人としての)必然技能と考える。

蓋然技能：必然技能と違い、誰でも必然的にできるわけではなく、能動的に学ぶ必要のある技能のこと。

例えば：“画画(絵を書く)”、“打羽毛球(バドミントンをする)”、“弹钢琴(ピアノを弾く)”、“打字(字を打つ)”、“修电脑(パソコンを修理する)”、“开车(車を運転する)”等能動的に学ばないとできない技能は蓋然技能と考える。

“会”が表す技能の種類を図3のように分類する。

図3



蓋然技能の場合、“会”はやり方が分かる意味を表し、“很会”は長けている意味を表す。必然技能に関しては、すでに(19)でわかるように、生れつきの本能・特性に関して“能”も“会”

も用いることができる。人間などの共通特性を描写する時に「能力があつてできる」意味を表し(57a)(58a)(59a)、個別的にある人の特性を描写する場合、例え程度副詞と共起しなくても「長けている」意味を表す(57b)(58b)(59c)。

(57) a.人生下来就会哭。(人は生まれつき泣くことができる。)

b.我妈妈会哭。(お母さんは泣き上手だ)

しかし、同じ必然技能として、自然な習得技能はやや複雑な状況にある。

(58) a.人是会思考的动物。

(人間は考える動物である。)

b.这个孩子会思考了。

(この子は思考することができるようになりました。)

(59) a. 人是会哭的动物。

(人間は泣くことができる動物である。)

b. *孩子会哭。

(子供は泣くことができる。)(相原(1997))

c. 这个孩子刚生下来时不会哭，现在会了。

(この子供は生まれたばかりの時に泣くことができなかったが、今はできるようになりました。)

(58a)(59a)では、人間の本能・特性を説明する場合は“会”が適切である。しかし、人間の抽象的な本能・特性を具体化する場合、例えば、(58b)の“思考”などは、生まれつきできる技能ではなく、「習得以前」から「習得以後」への飛躍が考えられるため、よく“会…了(できるようになった)”を用いる。しかし、(59b)の“哭”は生れつきできるため、つまり「やり方」が誰でもわかることなので、あえて“会”を使って説明する必要がないと考えられる。もし(59c)のように特別な状況により、「できない」から「できるようになる」意味を表す場合、“会…了”が用いられる。さらに以下の用例も観察しよう。

(60) a.孩子会说话了。(子供が話せるようになりました。)

b.妈妈会说话。(お母さんは話し上手です。)

c.妈妈很会说话。(お母さんは大変話し上手です。)

(61) a.孩子会写文章了。(子供が文章を書けるようになりました。)

b.妈妈会写文章。(お母さんは文章を書くのが上手です。)

c.妈妈很会写文章。(お母さんは文章を書くのが大変上手です。)

(60)、(61)で分かるように同じ“说话”でも、主語は習得段階にある子供であるか、習得済みの段階にいるお母さんであるかにより、“会”が表す意味に相違が観察される。習得段階の子供にとって、“说话”ができるのは当たり前なことではないが、お母さんにとって当たり前でできることなので、お母さんに対し、“会”を用いて説明する必要がなく、ここの“会”は「でき

“能”と“会”の文法的使い分けと意味的分析について（張素娟）

る」意味から「上手」の意味へ派生する。また、“会”が程度副詞と共起する場合は、「するのが巧みだ」という意味を表すことがすでに先行研究によって明らかにされてきた((60c)、(61c))。(60b)、(61b)で分かるように程度副詞と共起しなくても“会”は「上手」の意味を表すことができる場合がある。

さらに、相原(1991)では、すでに明らかにされている事実であるが、外国語の習得に関する「話す」「書く」「読む」「聞く」の四技能のうちで、“会”が使えるのは「話す」「書く」だけであり、「読む」と「聞く」には“能”の方を用いると述べている。

(62) 他会说中文。

(彼は中国語を話すことができます。)(相原(1991))

(63) 他会写汉字。

(彼は漢字を書くことができます。)(相原(1991))

(64) 他能听中文广播。

(彼は中国語のラジオを聴くことができます。)(相原(1991))

(65) 他能看中文报。

(彼は中国語の新聞を読むことができます。)(相原(1991))

(62)-(65)に関して、相原(1997)では、「“会”によって表される「技能」とはすぐれた形の裏づけを要求するものらしい。“听”や“看”という動作自体のカタチとして現れず、したがって、“听”と“看”に関しては“会”は用いられなく、“能”を用いることができる」と述べられている。しかし、“听”と“看”も“会”と共起できる場合があると考える。

(66) a.他能听中文广播。((64)再掲)

b.他会听中文广播。

(67) a.他能看中文报。((65)再掲)

b.他会看中文报。

(68) 会听不如会说。(聞き上手より話し上手がました。)

本研究で考察したように、“听中文广播”と“看中文报”は誰でもできる技能ではない。この場合は、“会”を用いると「やり方がわかる」という意味になり、つまり、「中国語ラジオの聞き方が分かる」「中国語の新聞の読み方が分かる」意味を表す。しかし、(64)、(65)では、「中国語のラジオを聴いて分かる」「中国語の新聞を読んで分かる」という意味を表すため、やり方の問題ではなく、語学能力の問題になり、“能”を用いると考えられる。(68)も同じである。

3.4 まとめ

本章では、「能力」を表す“能”と“会”を「物事の機能」を表す、「一般能力」を表す、「するのが上手」を表すの3種類に大別した。

「物事の機能」を表す場合、“能”しか用いられない。

「一般能力」を表す場合については、「能力の有無」を強調する場合は、“能”も“会”も用いられるが、“会”は「やり方が分かる」意味を表し、“能”は「能力の達成」を表す。「能力の実現」を強調する場合は、“能”しか用いられなく、“会”を用いることができない。

「～に長けている」を表す場合については、程度副詞と共起する場合、“能”は「数量」を強調し、“会”は「やり方が上手」を強調する。程度副詞と共起しない場合も、“会”は後ろの動詞が表す技能の特徴により、上手を表すことができる場合もある。しかし、“能”はこのような使い方を持っていない。

4 数量表現との共起可能性から

本章では、能力を表す場合の“能”と“会”が数量表現と共起する場合の使用条件を分析しながら、両者の意味的相違を明らかにする。

前章で述べたように程度副詞と共起する場合、“能”は数量的に高いレベルに達していることを意味し、“会”は上手に行うことを意味することは明らかである。実際、程度副詞と共起しない場合も、“能”は数量表現と共起でき、数量的な多さを表すことができる。一方、“会”の数量表現との共起に関しては、渡边(2000)では“强调在数量上的发挥时，就只能用‘能’而不用‘会’”と述べられている。たしかに、次例では“能”とは異なり“会”は数量表現とは共起できない。

(69) 他打字一天{能/*会}打一万字。(渡边丽玲(2000))

(彼は一日に一万文字を打つことができる。)

(70) 她{能/*会}游一千米。

(彼女は千メートル泳げる。)

しかし、次の(71)、(72)のように“会”が数量表現と共起できることも事実である。

(71) 我{能/会}刻一千个字。

(私は千文字を彫ることができる。)

(72) 我{能/会}说五门外语。

(私は五ヶ国語を話すことができる。)

(71)、(72)は“能”も“会”も数量表現と共起できることを示している。しかしながら、本章で論ずるように、“能”と“会”が共起する数量表現の特性には相違が観察される。

本章は、収集した言語資料を観察しながら数量表現との共起可能性を通して、“能”と“会”の異同を原理的に明らかにする。

4.1 数量表現と共起する“能”と“会”の使い分け

“能”と“会”と共起する数量表現は文中の位置により、次のように MVM 型、VM 型の 2

“能”と“会”の文法的使い分けと意味的分析について（張素娟）

種類に分類される。以下の例では数量表現を M、動詞を V と表記する。

(73) MVM 型: 他一个月{能/*会}赚 2000 块钱。

(彼はひと月に 2000 元稼げる。)

(74) VM 型: a. 他{能/*会}喝一升黄酒。

(彼は黄酒を一升飲む。)

b. 她{能/会}弹两首钢琴曲。

(彼女はピアノで 2 曲を弾ける。)

本研究では、従来は十分に論ぜられてこなかった(71)、(72)及び(74)のような数量表現と共起する VM 型に着目し、“能”と“会”の意味特性と使用条件を理論的に考察する。

4.1.1. MVM 型

呂叔湘(1980)、周小兵(1989)では、「効率を表す時に“能”しか用いられず、“会”を用いられない」と述べられており、相原(1991)では、習得した技能の深淺、例えば「効率」などを問題にする時は、“能”を用いると説明されている。

(75) 小李能刻钢板，一小时{能/*会}刻一千多字。(呂叔湘(1980))

(李さんは鋼板に文字を刻むことができる。しかも 1 時間に 1000 文字余りも。)

(76) 他{能/*会}一个小时做十道题。(周小兵(1989))

(彼は 1 時間に 10 題の問題を解くことができる。)

(77) 他一分钟{能/*会}打七百个字。(相原(1991))

(彼は 1 分間に 700 文字を打つことができる。)

(78) 日本合気道减肥法，走路 28 天{能/*会}瘦 3 公斤。

(日本合気道ダイエット法で、28 日間歩くだけで 3 キロ痩せることができる。)

(79) 一个人的确{能/*会}做两个人的事。(老舍《女店员》)

(一人でたしかに二人分の仕事をこなすことができる。)

黄麗華(1995)では、“能”は達成を表し、“会”はことがらが自然に成り立つことを表すと指摘されている。呂(1980)、周(1989)、相原(1991)で指摘される「効率」も一種の「達成」として考えられる。達成には具体的にどの程度に達成されるのかという到達度が問われる場合がある。(75)-(79)では、「鋼板に文字を刻む」、「問題を解く」、「文字を打つ」、「ダイエットする」、「仕事をこなす」ことはどのようなレベルに達しているかという到達度が問われる用例である。(75)-(79)から、MVM 型では、“能”しか用いられず、“会”は用いられないことが確認できる。

4.1.2 VM 型

“能”は数量表現と共起でき、“会”は数量表現と共起できないことはすでに複数の研究者によって指摘されている。たしかに、(80)-(84)の VM 型では、“能”しか用いられず、“会”

は用いられない。

(80) 他{能/*会}游 **500 米**。

(彼は 500 メートル泳げる。)

(81) 小李{能/*会}连续睡 **20 个小时**。

(李さんは 20 時間連続して寝ることができる。)

(82) 我{能/*会}扛 **30 公斤东西**。

(私は 30 キロの物を担ぐことができる。)

(83) 他{能/*会}吃 **2 个馒头**。

(彼はマントウをふたつ食べられる。)

(84) 她{能/*会}喝 **2 瓶黄酒**。

(彼女は黄酒を 2 本飲める。)

しかし、次は“会”が数量表現と共起できることを示す反例である。

(85) 他{能/会}说 **2 门外语**。

(彼は 2 ヶ国の外国語を話すことができる。)

(86) 她{能/会}写 **200 个汉字**。

(彼女は漢字 200 文字を書くことができる。)

(87) 我{能/会}唱 **5 首日语歌**。

(私は日本語の歌を 5 曲歌うことができる。)

(88) 我{能/会}刻 **1000 多个字**。

(私は 1000 余りの文字を彫ることができる。)

(89) 宝宝{能/会} **做 3 个动作**了。

(赤ちゃんは 3 種類の動作を覚えた。)

(85)-(89)にも“2 门外语”、“200 个汉字”、“5 首日语歌”、“1000 多个字”などの数量表現がある。しかし、この場合は“能”と“会”両方が用いられる。したがって、数量表現がある場合に必ずしも“能”しか用いられないとは限らないことが分かる。

4.2. “能”と“会”と共起する数量表現の相違

VM型は動作Vが数量的にMまで達していることを表す。これは到達度に起因するため、“能”を用いるのが自然である。しかし、(85)-(89)の諸例が示すように、“能”だけでなく、“会”も数量表現と共起できる。このことについて、本研究では以下のように仮定しておく。

まず、“能”も“会”も数量表現と共起できるが、“能”と“会”が共起する数量表現の特性には細かな相違が観察される。“能”はすべての数量表現と共起できるが、“会”は技能の種類に起因する数量表現としか共起できない。つまり、“能”より“会”を使う場合の方がより強い制限が課せられる。

“能”と“会”の文法的使い分けと意味的分析について（張素娟）

さらに、“能”と共起する数量表現は、動作の到達度を強調し、“会”と共起する数量表現は技能の種類を強調すると仮定する。

(80)-(84)では、(80)は泳ぐという技能が500メートルというレベルに達していることを表す。(81)は睡眠時間が20時間に達しているという意味を表す。(82)は担げる物の量が30キロに達していることを表す。(83)、(84)はマントウを食べる量が2個に、黄酒を飲める量が2本に達している意味を表す。すなわち、(80)-(84)の数量表現はすべて到達度に起因するものである。したがって、“能”しか用いられない。

一方、(85)-(89)の“2 門外语”、“200 个汉字”、“5 首日语歌”、“1000 多个字”、“3 个动作”という“会”と共起できる数量表現はすべて技能の種類に起因する数量表現であることが観察される。

本文中で用いる技能の種類に起因する数量表現を以下のように定義しておく：

⇒非序列化関係もとらえられる数量表現のこと。

(85)では、“2 門外语”は2種類の外国語のことを指し、この2種類の外国語はどちらかが上の序列にあるわけではなく、並列関係にあるものである。つまり、“2 門外语”は序列化のできない技能の種類を表す数量表現としてとらえられる。(86)の“200 个汉字”は異なる200の漢字を表し、(87)、(88)、(89)の“5 首日语歌”、“1000 多个字”、“3 个动作”は5種類の日本語の歌、1000あまり種類の文字、3種類の動作を表す。これらの数量表現も序列化のできない数量表現としてとらえられるため、“会”が用いられる。一方、(80)-(84)の数量表現には、このような特徴が観察されない。

同時に、(85)-(89)の数量表現は到達度に起因する数量表現としてもとらえることができる。(85)の“2 門外语”は話せる外国語の数は「2」カ国語に達している意味を表し、“200 个汉字”、“5 首日语歌”、“1000 多个字”、“3 个动作”も到達度としてとらえられるため、(85)-(89)では“能”と“会”の両方を用いることができる。

さらに、以下の用例を観察しよう。

(90) 他{能/*会}流利地说 2 门外语。

(彼は2ヶ国の外国語を流暢に話すことができる。)

(91) 她{能/*会}完整地写 200 个汉字。

(彼女は漢字200文字を完璧に書くことができる。)

(92) 我{能/*会}唱好 5 首日语歌。

(私は日本語の歌を5曲上手に歌うことができる。)

(93) 宝宝{能/*会}做出 3 个动作了。

(赤ちゃんは3種類の動作をしだした。)

(90)-(93)では、(85)、(86)、(87)、(89)と同じ“2 門外语”、“200 个汉字”、“5 首日语歌”、“3 个动作”という技能の種類に起因する数量表現はあるが、“能”しか用いられず、“会”は用い

られないことが分かる。なぜなら、(90)-(93)には傍点で示す“流利地”、“完整地”という連用修飾語、或いは“好”、“出”という結果を表す補語があるからである。VM型では、連用修飾語は程度を表し、結果補語は結果を表す。つまり、どの程度に達しているか、どのような結果になっているかを表す。この場合は、種類を表す数量表現が存在するとはいえ、文の焦点は到達度に着眼しているため、“能”しか用いられない。

以上の考察から、VM型では“能”はすべての数量表現と共起でき、到達度に着眼し、“会”は技能の種類に起因する数量表現と共起でき、技能の種類に着眼すると考えられる。

4.3.まとめ

本章では、“能”と“会”と共起する数量表現を文中の位置により、MVM型、VM型の2種類に分類した。さらに、能力を表す場合の“能”と“会”が数量表現と共起する場合の意味特性を分析し、両者の使用条件の相違を説明した。MVM型、VM型では、“能”はすべての数量表現と共起でき、到達度に着眼していることが確認された。一方、“会”はMVM型では用いられない。またVM型に関しては、Mは技能の種類に起因する数量表現としてもとらえられる場合だけは、“会”が用いられる。この場合の“会”は技能の種類に着眼する。連用修飾語、結果補語が存在する場合には、“能”しか用いられず、“会”は用いられないことも明らかにした。

5 今後の研究課題

“能”と“会”の使い分けは多くの研究者が注目する分野であると考えられる。今までの研究者は“能”と“会”の使い分けについて研究を行い、一定の成果を得ている。しかし、“我能游泳”と“我会游泳”のように、“能”と“会”の両方が用いられる場合の使い分け及び“会”の中のバリエーション、“能”の数量表現との関わりなどはまだ問題点として残されている。本研究は“能”と“会”の意味特性と使用条件、“能”の数量表現との関わりについて研究を行い、自分なりの研究結果を得たが、“能”と“会”の使い分けについては、今後も更なる研究を行う必要があると考えられる。筆者は次の段階で“能”と“会”の使い分けについて以下のように研究を行いたい。

- ① 「可能性」を表す“能”と“会”の使い分けについて分析する。具体的に言うと意志動詞と非意志動詞の面から「可能性」を表す“能”と“会”の使い分けを解明したい。
- ② 教育現場で“能”と“会”に関する語例をより多く集めて分析し、さらに日本人中国語学習者に役立つものになるよう試みる。

“能”と“会”の文法的使い分けと意味的分析について（張素娟）

<例文出典>

《老》：《老舍全集》老舍，人民文学出版社，1999年

《求》：《求医不如求己3》中里巴人，江苏文艺出版社，2008年

出典のない例はすべて著者の内省による作例である。

<引用文献>

呂 叔湘(1980)《現代漢語八百詞》、商務印書局

周 小兵(1989)〈“会”和“能”及其在句中的換用〉《煙台大學學報》、第4期、73-81頁

相原 茂(1991)「能・会・可以」『中國語』1月号、30-33頁、内山書店

史 有為(1994)〈得說“不能來上課了”〉《漢語學習》、第5期、28-29頁、吉林省吉林市

黃 麗華(1995)「中國語の可能表現の“能”、“可以”、“会”」『日本語研究』、15号、78-87頁、東京都立
大學國語學研究室

相原 茂(1997)『謎解き中國語文法』、12-55頁、講談社

鄒 韶華(1997)〈歧義成因舉隅〉《語法研究和探索》、第8期、139-152頁、商務印書館

渡邊麗玲(2000)〈助動詞“能”与“会”的句法语义分析〉《現代中國語研究論集》、147-156頁、中國書店

荒川清秀(2003)『一步すすんだ中國語文法』、182頁、大修館書店

片桐光知子(2006)「現代中國語における助動詞“会”と“能”の意味分析」『日中言語対照研究論集』第8
号、152-164頁、白帝社

松岡榮志(主幹)(2008)『超級クラウン中日辭典』、三省堂

勝川裕子(2011)「可能の助動詞“会”の表現機能と「上手い」への派生について」『中國語教育』第9号、101-114
頁、中國語教育学会

主指導教員（朱繼征教授）、副指導教員（大竹芳夫教授・秋孝道准教授）